

子どもとおしゃべりを楽しむ

つき組 平島

言語の発達には「聴く」→「話す」→「読む」→「書く」と進んでいきます。



つき組の今の時期は「話す前の準備」⇒大事な「聴く」時期です。

赤ちゃんは、お母さんのお腹の中に居る時から外界の声やお母さんの身体の音が聞こえています。

生まれてからは、

・声がする方を向く

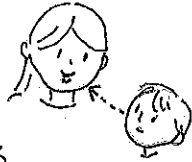
↓話している人の口元を見る

↓音節が出る（だだだ、まママ など）

↓喃語が出る（おしゃべりするような声）

↓指さして物の名前を訊く

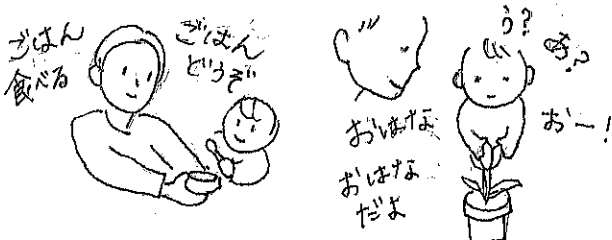
・名詞を言う（発音がはっきりしなくても）



子どものお話しの仕方は、個人差が大きいものです。大人でもおしゃべり好きな人、無口な人、など違いがあります。その子の性質や家族構成、家庭や保育園で使われる言語などで現れ方が違います。

つき組の子どもたちを観察していると、どの子どももとても早くから「名詞」をよく聴いています。

目が見えるようになって、じーっと注目している「物」に対して大人が「名前」を言っている。



自分は「〇〇ちゃん」/「ママ」「パパ」という人。



なんでも、お名前を教えてあげましょう！

名詞は、周囲を知る大事な手がかりです。子どもは、発音ができるよりずっと前から、周囲を知るためにとても興味深く聴いています。

・発語が遅いかな？と気になったり、
・泣き止まず、理由が分からなかったりして

「早くお話してほしいなあ」と心配されたりすることがあると思います。

つい、

「これは〇〇」「〇〇って言ってみて」

「〇〇なの？」「どうして欲しいの？」

と

言いたい気もちになるかもしれません。

そんな時は、

耳に心地よい声でおしゃべりをしたり、歌を歌ったりしたら良いと思います。そうするうちに子どもは泣き止んで気持ちよさそうに声が出ています。

「言葉」が心地よい楽しいものであることが「今ここにある素敵なことを人と共有する分かち合い」の積み重ねになり、その行為の繰り返しが「平和」を体験でき、争うよりも穏やかに話し合うほうが良いという土台を作ってくれることでしょう。

1歳前後の子どもに話しかけるときは、赤ちゃん言葉ではなく、しかし大人に話す時よりも

・ゆっくり、はっきり

・単語で区切って

・2～3語文でお話しましょう。

・「誘いかけ」や「どっちをしたいか」たずねると、言葉にならなくとも音声が出てくることが多いな、と保育園では感じられます。

(靴を脱いでる)
(おへやに帰りたい?)
「ごはん食べたいの?」



「ごはん、べーう!」